

# 「ほうじょう」コラム

題 「ほうじょう」から離発着するドローンの初フライトについて

最近何かと話題性の多いドローン。

当场においても、展示会や講演会に参加するなどして有効性を検討した結果、漁場や藻場の状況把握等に用いるため導入することと致しました。

保険の加入手続きを終え、取扱説明書や参考書を読み返すこと幾度。当场には、今までドローンを扱ったことがある経験者がいなかったもので、初フライトまで四苦八苦しました。

はじめに、船とドローンの間に電波干渉がないか、飛行禁止区域はどこかなど、フライト前に確認することが多々ありました。

次に、送信機に付いているアプリケーション上で、フライトシュミレーションを何度となく実施。その後、国土交通省許可承認を得るのに必要な基礎訓練を陸上で重ね、ようやく、船上からの初フライトに漕ぎつけることが出来ました。



写真1 陸上での基礎訓練状況（小田原新港にて）

筆者が船に乗り始めた25年前、将来ドローンというものが登場し、小型船舶からそれを離発着させるようなことなど夢にも思いませんでした。

しかし技術開発の進歩は凄まじく、小型船舶である漁業調査指導船「ほうじょう」からドローンを飛ばす時代が到来したのです。



写真2 平成29年6月27日 「ほうじょう」からの初フライト ドキドキ…。



写真3 漁業調査指導船「ほうじょう」を上空から撮影



写真4 ドローンを使用した定置網敷設状況の確認

ドローンは、手軽に上空から撮影することが出来るという強みを生かし、急潮が発生した際、写真4のように、上空から定置網や付帯設備の変化を撮影することで、その状況把握が可能だと考えています。

その他、沿岸の藻場分布や神奈川県が管理している漁港点検や海岸の侵食状況把握など、様々な分野でこの強みを生かすことができると考えています。



烏帽子岩上空から撮影

このように、当场では水産工学部門の研究開発を推進するにあたり、新しい技術を積極的に活用して神奈川県水産振興に貢献していきたいと考えています。